



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 26

2018.5.5

～初めての現地訪問～

NPO 法人イフパット 研究員 錦織 紀子
(国内調整員/専門家現地活動調整/通訳補助)

こんにちは。宮崎現地調整員に代わり、プラ・ビダ番外編として、今年3月に初めてコスタリカを訪問したわたくし、錦織が印象に残った視察先2か所について紹介させていただきます。

■セバディージャ・スル集落生活改善グループ員エルサさん宅の家庭訪問

セバディージャ・スルのグループを引っ張っているリーダー格のエルサさんは、以前レストラン勤務で家族との時間を持つのが難しい程に忙しく働いていました。しかし、生活改善グループに入ったことで時間の使い方を改善しようと思い立ち、今は転職して二軒の家で家政婦をしています。家族との時間が取れるようになったのか質問すると、「今は家庭菜園を家族と一緒に取り組んでおり、この時間が家族団らんの時間となっている。」と満足そうに話してくれました。

家庭菜園には、キャベツ、トマト、ピーマン、パクチー、モリンガ、レタス、かぼちゃの他、永井プロジェクトマネージャーから種をもらって育てたというオクラなどが所狭しと並び、天井には直射日光を防ぐため黒い遮光ネットを設置し、菜園を友情の苗木畑 (VIVERO LA AMISTAD) と名付け、手作りの看板がかかっていました。道路脇にある彼女の家庭菜園は、隣人の関心を集め、動物避けに菜園の周りを緑色のネットで囲っていますが、最初材料が足りずちぐはぐしていたネット張りを見た隣人たちが、自宅にあった材料を提供してくれ、四方全てを囲うことができたそうです。以前家の前にパトカーが停まり、何事かと不安を感じるエルサさんをよそに「パトロール中、家庭菜園を見て気になったので見学させてほしい。」と警察官が訪ねて来たエピソードを笑いながら話してくれました。



「夢はバイオ庭園※をグループの仲間でやること。一人一人でするのは大変なので、共同作業で個人の負担を減らしたい。」と語り、グループ活動に意欲的な姿勢を見せていましたが、その夢は着々と実現し、今セバディージャ・スルグループでは、グループ活動でバイオ庭園を設置する計画が進んでいます。



近くでは野菜の苗が手に入らず、遠方に買いに行くしかなかったが、農牧省の指導で苗作りを学んだことをきっかけに、自分で作った苗を販売することを思い付き、現在グループの皆と苗屋の商売を始める計画をしています。

菜園の傍らにある水を溜めた大きなバケツは、乾燥する菜園の湿度を上げ、また、気温が高く水道を捻るとお湯が出るので、バケツに溜めておくことで冷まし水やりに使います。衛生のため、水は毎朝入れ替えています。

家庭菜園に取り組む4Sクラブの交流会で知り合った人から材料を分けてもらい、新しくみみずの堆肥作りに取り組んでいます。宮崎現地調整員曰く、彼女は家庭訪問をする度に、新しいことに取り組んでいるそうです。

■生活改善活動先進地区アマグロ視察

去年の10月コスタリカを襲った豪雨の影響で橋が壊れ、アマグロ視察が危ぶまれましたが、なんとか橋の修復が間に合い、生活改善活動先進地区であるアマグロへの視察訪問が実現しました。

グループ員の家庭訪問をはじめ、バイオ庭園やティラピアの養殖、バイオガスの施設など見学させてもらい、アマグロの生活改善活動について話には聞いていましたが、想像以上の素晴らしさに見学時間が足りないほどでした。施設など目に見えるものもさることながら、その中でもグループ員の生活改善に対する考えと取り組む姿勢に、深く感動を覚えました。

ほとんどのグループ員が「poco a poco(少しずつ)」という単語を口にし、5年間の活動を通して、少しずつではあるが着実に前進し、結果を残してきたことで自信をつけ、さらに活動を継続している姿がありました。生活改善を学びと捉え、「学ぶことに終わりはない」という発言も多々見受けられ、今までも、そしてこれからも良い方向へ変わっていくという彼らの決意がこもった言葉一つ一つに心打たれ、彼らの発言を聞くうちに胸が熱くなりました。集会所には、個人の計画や年間目標が貼ってあり、グループ員が皆で話し合い、振り返りを行って、生活改善の一つの要素である課題解決学習を絶えず実践してきた様子が伺えました。発表中は時間に配慮し、全員が発言できるよう、それぞれを気遣う姿が印象的でした。



アマグロ集落グループ員の発言を抜粋

・フランクリンさん 生活改善活動を通して、少しずつ変わり始めた。子供も男も女もそれぞれの役割があり、それぞれ家族ができることを始めることが重要。
・ルイスさん 少しずつ、少しずつよくなっている。栽培しているコーヒーの品質もよくなった。
・ダニーロさん 生活改善は人生を完全に変えた。活動を通して1日1日とよくなっていく。活動を通して人生を改善することを学んだ。以前は収入が低かったが、200～300%増加した。忙しく精神に栄養を与えられなかったが、今は健康面も気をつけている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ロベルトさん この土地に来た時は家もなかったが、仲間の協力で家を建て、落ち着いて住むことが出来ている。水源を守ることを学んだ。この変化は大きい。ゼロから色々なものを手に入れ、良い暮らしをしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・フロールさん 生活改善グループが人生で最も大きなこと。学んだことは、何かをやるときに、自分の持っているものを使って先に進むこと。運動について教えてもらい、実践している。食事の量ではなく、中身を変えることを学んだ。ここの良いところは家族全体を巻き込むこと。孫も娘もみんな一緒に学んだ。ここは学ぶことを決してやめない場所。今日1つ良くなり、明日また1つ良くなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・マルタさん 健康は本当に改善された。71キロあったので、油を減らし、体操に取り組んだ。今は喘息も改善し、昔は走れなかったが、走れるようになった。そうやってちょっとずつよくなっていった。決して学ぶことは無くならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・フディータさん 以前はグループの人に名前を言うのも恥ずかしかったけど、自分の口で説明できるようになった。学びには終わりが無い。個人的には、痩せるのが大変だったが、少なくとも太らず維持している。運動も始めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・フェデリコさん 生活改善を通して仲間ができた。グループのみんなが同じ方向を向いている。生活改善グループは終わりのない学校のようなもの。活動前と変わったところは、ポジティブになったこと。積極性が身につき、先に進んでいこうと考えるようになった。

※バイオ庭園

家庭排水を再利用する設備。家庭排水の垂れ流しをやめ、再利用することが目的。



シャワー等の家庭排水を利用。



2種類の土の上に小石を敷き詰め、植物を植え、地下に排水を流し、植物にリン、窒素を吸わせる。



きれいになった水は、養鶏や養殖用のテラピア、家庭菜園などに利用。

■継続は力なり…まずは、私の生活改善！

今回の出張で初めて現地活動を見る機会を頂き、オロティナ市内3グループ8名の家庭訪問を実施しましたが、個人活動が順調に進み楽しそうに生き生きと持続的に取り組むグループ員、逆になかなか改善が進まないグループ員と状況は様々でした。なかなか進んでいないグループ員も、過去に家の改善をしたという実績があり、嬉しそうにその体験を語っていました。本人にやる気がないわけではなく、どう形にしたらいいかわからず、種が眠っている状態なので、芽が出るよう、まずは活用できる資源に気付いてもらい、本人の持っているものを引き出すことが重要となります。活動を単発で終わらせず、軌道に乗せるには一人では難しいかもしれませんが、彼女はグループ結成時から活動に参加し仲間や現地ファシリテーターがいるので、皆の姿と助言をもとに、時間はかかっても彼女の改善は進んでいくと私は期待しています。また、現地ファシリテーターにとっても、彼女から気づかされることや学びが沢山あると感じました。

青年海外協力隊でコミュニティ開発隊員を目指し、現在生活改善について勉強中のわたくしですが、何かを人に伝えるとき、聞いたことより見たこと、見たことより自分自身でやったことがどれだけ説得力があるか、生活改善に関わる方々にお会いする度に感じてきました。

どんなに小さなことでも“続ける”ということは、本当に難しいです。それが、自分にとって利益となり、望みを叶えるためであろうと、「忙しい」とか「面倒くさい」と何かしらの理由をつけ、特に自分のためであればあるほど、人に迷惑をかけないと感じるので簡単に諦めることができます。しかし、今回生き生きと楽しそうに活動していたグループ員は、自分がどう在りたいかをしっかりと考え、絶えず自分自身と向き合い続けていました。

今回の出張を機に、わたくし自身の生活改善が止まっていることを反省し、お会いしたグループ員の姿と言葉を思い出しながら、まずは健康を第一に考えるという個人活動を再開しました。「継続は力なり」この言葉を胸に置き、生活が続く限り、生活改善は続きます。